

外来語と英語教育(2)

- 中学校英語教科書に表れた外来語リスト -

1979年2月13日

この研究に携わった研究員

森永 誠	石津谷 進	萩野 浩
長 勝彦	青木 弘子	安原 修三
坂神 静	今村 英子	

目 次

はじめに	
序	
目 的	27
参考文献	27
調査経過および資料の読み方	27
1 リストAの読み方	28
2 リストBの作成の経過	28
3 リストBの読み方	29
4 リストA - 小学校高学年教科書に表れた外来語リスト	30
5 リストB - 現行中学校英語教科書に表れた外来語(英語)リスト	31
調査結果	32
1 動詞に「する」、形容詞に「だ」「な」をつけて調査した結果	32
2 複合語	32
3 完全な語幹と欠落した語幹の通過率の変化	34
4 表記のちがいによって生じる通過率の変化	34
5 極端にわかっていない語(通過率29%以下)	34
6 意外によく知っている語(通過率90%以上)	35
7 男女によって通過率の異なる語	36
注	36

目次は発表時のもので、ページの示されていない項目は、このダイジェスト版では省略されています。

目 的

外国語学習の中、特に英語の初歩の学習において、外来語（英語）の使用は学習者の語彙負担を軽減することができるか、あるいはできないか、という問題はまだ明らかにされていない。しかも、英語の意味項目の中で、使用度の高いものが外来語となっている例が多い。従って、これらの外来語（英語）を用いることによって、語彙負担を軽減することができるとするならば、どのように整理することが必要条件であるか。このことについても明らかにされていない。文構造の中で、外来語（英語）が内容語として同化を進めている項目は、いくらかは整理できよう。音声についてもいくらかは整理することが可能であろう。

外来語（英語）を英語教育にどのようにとり入れることができるか、このことについても明らかにされていない。また、音声の関係をどのように整理して生徒に与えるといいか、このことも明らかにされていない。英語が外来語になる場合、かなりの inflection が落ちる傾向があるから、逆に外来語（英語）を英語に戻す場合、どのように inflection を補足すればよいかを、なんらかの形で整理することが可能かもしれない。音声の関係で、外来語（英語）を英語にもどす基本的な項目もいくらかは整理できよう。それらのことを英語教育にとり入れることが可能かもしれない。

このような諸問題を解決する手がかりを得るためには、まず、妥当な資料の開発・整理が必要である。「小学校高学年教科書に表れた外来語リスト」に続いて、本年度、「中学校の英語の教科書（5社）に表れた外来語リスト」を作成することとした理由は、その試みの一つとしてである。

参考文献

- 1．大野晋「日本語の文法を変える」岩波新書 P.85
- 2．同 P.94
- 3．同 P.96
- 4．同 P.97-98
- 5．矢崎源九郎「日本の外来語」岩波新書 P.213
- 6．「外来語と英語教育1」東京都中学校英語教育研究会研究部 P2 1978
- 7．石綿敏雄「外来語の歴史：言語2」大修館 P.29 1978

調査経過および資料の読み方

「小学校高学年教科書に表れた外来語リスト」- 昨年度調査 - との関連の資料を、JAPANIZED ENGLISH WORD LIST A としてまずとりあげ、つぎに「現行中学校英語教科書（5社）に現れた外来語（英語）リスト」を、JAPANIZED ENGLISH WORD LIST B としてとりあげることとした。

今回の中心テーマは LIST B についてであり、調査の結果表れたパーセンテージから読みとれる辞書をあげてみた。

1. リストAの読み方

ENGLISH	カナ	%	Z B A A S1 S2	P S	中学校教科書				COMMENT		
					R	E	H	P		C	T
adventure	アドベンチャー	85		N	1				3		
Africa	アフリカ	85		N	2		3		3		
air bus	エアバス	53		N	5		3	3	3	2	3
Alaska	アラスカ	95		N	1		3				
album	アルバム	85		N	4		1	1	1	2	

1 ENGLISH とカナの項は、現行小学校高学年用教科書に表れた外来語（英語）のリストである。

2 % は、52年度中学校1年生を対象にして調査した結果の通過率を示す。

3 略号は次の通りである。

Z 全英連基本英単語活用表

B A Beginning Active Vocabulary

A Active Vocabulary

S₁ Syllabus by Monbu-sho (1968) (必要語彙)

S₂ Syllabus by Monbu-sho (1977) (必要語彙)

P S Parts of Speech

R Range (何種類の教科書で使われているか)

E New Everyday (1978)

H New Horizon (1978)

P New Prince (1978)

C The New Crown (1978)

T New Total (1978)

(E H P C T の項の 1・2・3 の数字は、使われている学年を示す)

4 このリストは、「昭和53年度 中学校教科書使用単語 統計研究：英林社」を下敷きにし、現行教科書（5社）と照合し、これを訂正したものである。

2. リストB作成の経過

1 現行・中学校英語教科書・5社の語彙リスト - 改訂版 - を原簿とした。語の総数は約2,300語である。

2 研究員8名（男5名、女3名）のうち5名が中学1年にはいってくる生徒 - 現在の小学校6年生 - にとって理解しうる外来語であると認めた語を上記の原簿から採用した。その合計数は約520語となった。

3 調査対象は次の通りである。

ア．東京都の小学校6年生を対象とし、同一語について2つ異なった地域を選んだ。
 イ．2つの地域の実験群の生徒は各々約40名とした。

4 調査の方法は、それぞれの語について40名の生徒に〔 - 知っている、意味がわかる - あいまいにしかわからない x - わからない〕の3つに分けて解答させた。

調査用紙では、「名詞・動詞・形容詞および inflection を伴う語」と「複合語」は指示をかえた。複合語については、〔知っている、知らない x、どちらとも言えない〕の印をつける場合、次の補足をした。〔例．ポークカツ... 「ポーク」が「ぶたにく」とわかる人は をつけます。下線をひいた部分がわかれば
 なのです。〕すなわち、複合語の下線をひいた部分を調査の対象とした。なお、日本語との複合語(例、ビート板)もこれに加えた。

5 調査する語彙については、動詞と形容詞は送りがないをつけ、名詞には送りがないをつけないこととした。その理由としては、次のことがあげられる。

ア．外来語は活用しない。

イ．外来語の動詞・形容詞・副詞などの語幹の部分は名詞化される。(漢語もこの法則に従って日本語と同化してきた。)

ウ．英語の名詞は、外来語として日本語の名詞に移行する傾向がある。従って、名詞には送りがないをつけない。

エ．英語の動詞は名詞化し、「する」とともに複合動詞として用いられるものが多い。従って、動詞には送りがない「する」をつける。

例．jump する(母語 - 英語)、飛躍する(母語 - 漢語)

注．動詞には語形を省略して、これに「る」をそえるものがあるが、語形を省略するため、語幹自身が欠ける。このため、これは調査の対象としないこととする。

例．agitate アジる(注．語幹を省略しなければ、アジテートする)

オ．英語の形容詞は名詞化し、これに「だ」「な」をつければ、形容詞として働く。従って、形容詞には送りがない「だ」あるいは「な」をつける。

例．fresh だ、fresh な(母語 - 英語)、新鮮だ、新鮮な(母語 - 漢語)

3 . リスト B の読み方

ENGLISH	カ ナ	'77 %	'78 %	中学校教科書					
				R	E	H	P	C	T
adventure	アドベンチャー	85	54	1					3
advice	アドバイス	-	83	1					3
Africa	アフリカ	85	97	2		3		3	
afternoon	<u>アフタヌーン</u> ・ショー	-	20	5	1	1	1	1	1
air	<u>エア</u> ・バス	53	15	5	3	3	3	2	3

Alaska	アラスカ	95	92	1	3	
album	アルバム	85	98	4	1 1 1	2
all	オー・ライ〔ト〕	100	36	5	1 1 1 1 1	
alphabet	アルファベット	100	97	1		1

1 リスト中、カナ表記の下線のある語は複合語を示し、英語表記の()のあるものは inflection (-s, -ing 等)を示す。

2 語幹の欠落が見られる語は、本来リストに載せるべきものでないが、参考資料としての調査の記録という意味で、2字分ずらして付加した。

例 . department store デパートメントストア 50%
 depart デパート 92%

3 '77 「リストA：小学校高学年教科書……」調査対象は中学校1年生

'78 「中学校英語教科書使用単語(5社)」調査対象は小学校6年生

4 リストA - 小学校高学年教科書に表れた外来語リスト

JAPANIZED ENGLISH WORD LIST A

ENGLISH	カナ	%	Z B A A S1 S2	P S	中学校教科書		COM- MEN- T
					R	E H P C T	
adventure	アドベンチャー	85		N	1	3	
Africa	アフリカ	85		N	2	3 3	
air bus	エアバス	53		N	5	3 3 3 2 3	
Alaska	アラスカ	95		N	1	3	
album	アルバム	85		N	4	1 1 1 2	
all right	オーライ	100		Adv	5	1 1 1 1 1	
alphabet	アルファベット	100		N	1	1	
America	アメリカ	88		N	5	2 1 2 1 1	
announcer	アナウンサー	100		V	1	3	
Asia	アジア	85		N	5	3 2 3 3 3	
Australia	オーストラリア	100		N	1	1	
back	バック	100		Adv	5	2 2 2 2 2	
balance	バランス	100		N	1	3	
ball	ボール	100		N	5	1 1 3 3 2	
banana	バナナ	100		N			
base	ベース	100		N	1	3	verb
basketball	バスケットボール	100		N	2	1 2	
bat	バット	100		N	1	1	

belt	ベルト	78	N	1	2	
blind	ブラインド	98	N	1	3	
blue	ブルー	100	Adj	5	1 1 1 2 1	
boat	ボート	98	N	5	2 3 3 1 2	
body	ボディー	83	N			
bowl	ボール	95	V	1	3	
boy	ボーイ	100	N	5	1 1 1 1 1	
bridge	ブリッジ	95	N	5	3 2 3 3 3	
bucket	バケツ	100	N	1	3	
building	ビルディング	95	N	5	1 3 1 2 3	

5 リスト B - 現行中学校英語教科書に表れた外来語(英語)リスト

JAPANIZED ENGLISH WORD LIST B

ENGLISH	カナ	'77 %	'78 %	中学校教科書					
				R	E	H	P	C	T
adventure	アドベンチャー	85	54	1					3
advice	アドバイス	-	83	1					3
Africa	アフリカ	85	97	2		3		3	
afternoon	<u>アフタヌーン</u> ・ショー	-	20	5	1	1	1	1	1
air	<u>エア</u> ・バス	53	15	5	3	3	3	2	3
Alaska	アラスカ	95	92	1		3			
album	アルバム	85	98	4	1	1	1		2
all	<u>オー</u> ・ライ〔ト〕	100	36	5	1	1	1	1	1
alphabet	アルファベット	100	97	1					1
America	アメリカ	88	98	5	2	1	2	1	1
American	<u>アメリカン</u> ・コーヒー	-	69	5	2	1	1	1	1
animal	アニマル	-	36	5	1	3	3	1	2
announcer	アナウンサー	100	93	1	3				
apartment	<u>アパートメント</u> ・ハウス	-	30	1		3			
apart	アパート	-	88						
appeal	アピールする	-	53	1					3
apple	<u>アップル</u> ・パイ	-	98	5	3	1	1	1	1
April	<u>エイプリル</u> ・フール		63	5	1	1	1	1	1

調査結果

通過率からさまざまなことが読みとれるが、特徴的なことをあげると次のようなものがある。生徒がほぼ「知っている」と判断できる語を通過率70%以上としたが、約300語あった。これは調査語数の約60%にあたる。通過率90%以上の語を極めてよく理解している語とし、通過率29%以下の語を極端にわかっていない語とし、これを研究員の討議の際に一応の基準とした。

1. 動詞に「する」・形容詞に「だ」「な」をつけて調査した結果について

通過率の低い語：ホープする(17%)、スマイルする(27%)、ラッシュする(33%)、ショートな(11%)、ナチュラルな(16%)、シャープな(20%)、ポピュラーな(29%)、モダンな(32%)、スペシャルな(36%)、フリーな(38%)、ハーフだ(33%)などがあげられる。

通過率の高い語：テストする(97%)、カバーする(97%)、ダンスする(98%)、コピーする(97%)、ストップする(95%)、ドライブする(98%)、フライ(料理)する(97%)、デザインする(98%)、アタックする(94%)、コントロールする(93%)、タッチする(91%)、チェンジする(91%)、グリーンだ(96%)、キックする(91%)、ノックする(92%)、ラッキーな(91%)などが見られる。

- 1 動詞に「する」、形容詞に「だ」「な」を付記して調査した結果が、付記しない場合とどれだけ差があるのか、今回の調査では明らかではない。
- 2 セット(20%)がセットする(42%)となり、ナチュラル(66%)〔音楽用語としてではあるが〕がナチュラルな(16%)となり、逆の結果となっていること等、調査方法についてさらに考察する必要があると言える。
- 3 コントロールする(93%)、リラックスする(60%)、フレッシュな(70%)、ミックスする(83%)、アタックする(94%)などは予想外によく知られている語といえる。
- 4 モダンな(32%)、ポピュラーな(29%)、ショートな(11%)などは意外に通過率が低い。これらは、語そのものが知られていないというよりは、「～な」の表現が生徒にとってなじみが薄いためとも思われる。例えば、「ポピュラーな」は聞きなれないが、「ポピュラーソング」ならより多くの生徒が理解を示すであろう。一方「ラッキーな」は、その表現で日常よく使用されていることも、高い通過率を示した一因であろうと思われる。

2. 複合語について

通過率のかなり高い複合語について、次のような特徴がある。

1 複合語の意味も、構成要素の単語の意味もわかっているもの

アップルパイ(98%)、クリスマスカード(82%)、コーンスープ(100%)
フラワーデザイン(82%)、ゴールドメダル(80%)、ペーパーテスト(82%)、
レインコート(54%)、スローモーション(91%)、ソフトボール(84%)

これらの単語は、単独に使われたり(クリスマス)、他の語と別の複合語を作っている(ソフトクリーム・ポップコーン)のでよく知られている。

2 複合語としての意味から構成要素の単語の意味を理解していると思われるもの

パースディケーキ(76%)、ダブルパンチ(87%)、スイミングクラブ(92%)

1と2の区別をつけ難いものもあるが、これらの単語は、例えばスイミングクラブとは何であるか知っていることから、スイミングの意味を推測したものと考えられる。すなわち、複合語としてどの程度知っているかが、その単語の通過率に表れている。上例にはないがエイプリルフル(63%)とメイデー(10%)の数字を比較するとよい。エイプリルフルの方が生徒にとってはるかに身近な語であり、「四月馬鹿」という日本語でも知られているから、エイプリルの意味を一層理解しやすいのであろう。(もっともメイデーではなくメーデーと表記すると、違う結果が出たとも考えられる。また、生徒の日常使用する語彙のなかで、他の単語と結びついて複合語となる例は少ないようである。)

3 複合語としてはわからないが、部分としての単語の意味がわかっているものは、このリストからは探し出せない。アメリカンコーヒー(69%)などは複合語としての通常率をもっと下がることが予想される。

一方、通過の低い(29%以下)複合語については、次のような特徴がある。

4 複合語としてはわかっているが、部分の単語の意味がわからないと思われるもの
ペンパル(8%)、アングルトム(9%)

5 複合語としても、部分の単語としても意味がわからないと思われるもの

エアバス(15%)、コールドチェイン(17%)、クリーンヒット(31%)、サーチライト(21%)、ベビーフェース(13%)、ファニーフェース(10%)ヘルスメーター(17%)、ヘルドボール(6%)、ローストボール(19%)、ニアミス(2

%)

クリーンヒットの場合、男女の差が大きい(男子21名中10名に対し、女子は20名中2名しか知らない)。このことは、クリーンヒットという複合語の知識が、そのままクリーンの意味の理解度に表れていると考えられる。また、ベビーフェースとファニーフェースの関連も興味深い。どちらも複合語としては、生徒になじみのない語であるが、ファニーに比較してフェースの方は、ニューフェースなどで知ることが多く、その違いが数字に出ているものと思われる。

6 複合語としてはわかっているはずであるが、部分の単語の意味が意外にわかっていないもの(30%以上のもを含む)

フードセンター(20%)、エンゲージリング(21%)、カウボーイ(30%)
フレンチトースト(35%)、ラッシュアワー(38%)、ネクタイ(42%)

3. 完全な語幹と欠落した語幹の通過率の変化について

語幹の脱落したものの方が日常よく使われているので、当然通過率は高い。

アパート(88%)、- アpartmentハウス(30%)、デパート(92%) - デpartmentストア(50%)、プロ(92%) - プロフェッショナル(63%)、テレビ(95%) - テレビジョン(80%)

テレビ - テレビジョンは両方とも日常よく使われているので、共に通過率が高いと考えられるし、プロフェッショナル(63%)が比較的高いのは、外来語が次第に原音に近づく例といえよう。

4. 表記のちがいによって生じる通過率の変化について

例えば、ドルとダラーのように、表記のちがいによって通過率が異なるのではないかと考えられる語について、別々の表記で調査リストに加え、通過率の差異を調べてみた。

その結果、多くの場合、当然予想できる結果が出た。その主なものを拾うと次のようである。

ビジネス(5%) - ビジネス(13%)、ダラー(12%) - ドル(75%)、ハプニング(5%) - ハップニング(50%)、ロスアンジェルス(51%) - ロスアンゼルス(63%)、スティック(33%) - ステッキ(67%)、ストライク(93%) - ストライキ(87%) - ストライクする(45%)

ハプニングとハップニングの結果は意外であるが、ストライクについては生徒の大半が野球のストライクととったためと考えられる。

5. 極端にわかっていない語(通過率29%以下)について

1 大人の生活の中では多く使われているが、子どもの生活にあまり表れないもの
シルク(20%)、フードセンター(20%)、オフィス(24%)、エンジニア(23%)、エンゲージリング(21%)、ディナー(22%)、ガーデン(20%)、ナンセンス(29%)、ファニーフェイス(10%)、シンフォニー(19%)、ベビーフェイス(13%)、ジェントルマン(23%)、ヘルスマーター(17%)、プリンス(22%)

2 メーター以外の長さの単位

フィート(27%) 参考: インチ(44%)、ヤード(40%)

3 小学校ではやらないスポーツの用語

ヘルドボール(6%)、エンドライン(20%)、スローインする(28%)、トラベリング(26%)、ローストボール(14%)

ただし、バスケットボールは55年度よりとり入れられるので、移行措置として現在とり入れられている。

4 古いことばになりつつあり、若い世代には理解しにくいと考えられるもの

ランタン(14%)、セーラー(服)(20%)、ジャケット(23%)

5 複合として理解できるが、部分としては理解できないと考えられるもの

チャイナ(20%) チャイナタウン、ウィンター(19%) ウィンタースポーツ、
 ヨー(18%) ギャザースカート(特に女子にはわかると考えられる)、セット
 (20%) コーヒーセット、セパレート(14%) セパレートコース、ソック(21
 %) ソックタッチ、シュー(22%) シューシャイン、ショートな(11%) シ
 ョー トなスカート

6 新聞・雑誌等によく使われているが、小学生にはあまり知られていないと考えら
 れるもの

スピーチ(5%)、スペリング(5%)、デモクラシー(9%)、センセーション
 (1%)、アフタヌーンショー(20%)、ビジネス(13%)、ニアミス(2%)
エアバス(15%)、ヨールドチェイン(17%)、ハプニング(5%)、ウエイトリ
 フティング(10%)

7 外来語として日本語の中にはまだ定着していないと考えられるもの

ノイズ(21%)、スロープ(8%)、ホープする(12%)、ナチュラルな(16%)、
 アンクル(9%)、ペンパル(8%)、ダラー(12%)、フィールド(スポーツ以
 外)(16%)、スローリーに(17%)

6. 意外によく知っている語(通過率90%以上)について

例えば、ラジオ・バイオリン・バター・バケツ・ハンドバック・サンドイッチ・
 ニュース等日本語で置きかえることのできない語の通過率が極めて高いのは当然の
 ことであるが、プレゼント(87%)、ピクニック(81%)、ネーム(81%)、プログ
 ラム(86%)、クリーニング(89%)、ネット(84%)、レター(66%)等の数字を
 もとに考えるならば、次のような通過率は意外といえよう。

これらは今後の英語教育の上で大いに参考にすべきものとする。アルファベッ
 ト(97%)、アシスタント(94%)、アタックする(94%)、ベビー(92%)、バ
 ランス(98%)、ベース(100%)、ビーバー(92%)、ビーフステーキ(98%)、ベ
 スト(90%)、ブラック(98%)、ブルー(98%)ブラック(98%)、ブルー(98
 %)、ボックス(90%)、チェンジする(95%)チェックする(91%)、コイン(98
 %)、コントロールする(93%)、コピーする(97%)、カバーする(97%)、デザ

インする(98%)、ガール(93%)、)グリーンだ(96%)、グラウンド(93%)、ハロー(92%)、ハウス(94%)、キックする(91%)、レッスン(91%)、ライト(灯)(92%)、モンスター(92%)、ニックネーム(90%)、ペット(95%)、ストップする(95%)、テストする(97%)、タイガー(90%)、トップ(94%)、タッチする(91%)、バック(92%)

7. 男女によって通過率の異なる語について

男子の方が女子より通過率の高い語

1 〔スポーツに関する語〕

ベースボール、センター、ライト、セカンド、サード、レフトの方向、クリーンヒット、フェアプレイ、サイドライン、ピート板、スキーヤー、リング、マッチ(スポーツ関係)、ホールインワン

2 〔その他の用語〕

アドベンチャー、アニマル、アピールする、ビッグな、ビリッチ⁶、セント、ライフ、スカイ、マイル、パワー、モントリオール、ノイズ、ナンセンス、ニックネーム

女子の方が男子より通過率の高い語

1 〔衣服に関する語〕

ベスト、ラビット(毛皮)、シルク

2 〔食品・料理に関する語〕

ボール(調理用器具)、チェリー、パイ、シュガー

3 〔住居・家庭用品に関する語〕

ブラインド、ルーム、シート、ソファ、ヘルスメーター

4 〔手芸・音楽等に関する語〕

チェインステッチ、クロスステッチ、ビートルズ、シャープ(#)、メロディー、ハーブ

5 〔その他の語〕

カリフォルニア、ニューヨーク、クィーン、ミッキーマウス、ビューティサロン、ショッピング、エンゲージリング、モデル

上記の分類から、小学校6年になると男女によって、それぞれの語に対する関心度が違ってくる。例えば、家庭科などの教科を通して、男女共通に習っている語でも、女子の方がよく知っていたり、エンゲージリングのリングなどについてもよく知っている。一方、同じリングという語でも、複合語としてではなく、ただのリングという語について調査してみると男子の方がよく知っている。男子は、バスケットボールのリングを連想するのではないか。一般に男子はスポーツ用語、なかでも野球用

語は、特によく知っている。

注. この調査に協力していただいた小学校は次の通りである。

世田谷区立中町小学校

江東区立東陽小学校

墨田区立第一寺島小学校

江戸川区立小岩小学校

大田区立清水窪小学校

江東区立第一亀戸小学校

江戸川区立小松川小学校